

平成8年7月9日

逃げないですむまちづくり

「提案 池袋本町防災まちづくり」地元報告会 10日、夜7時から

10日午後7時から、池袋中学校体育館（豊島区池袋本町4-5-24、東武東上線・北池袋駅下車・徒歩3分）で、池袋本町防災まちづくりの会主催による地元報告会、「提案 池袋本町防災まちづくり」が開催される。

池袋本町地区は、東をJR線、西を山手通り、南を川越街道、北を東武東上線に囲まれた、木造建物が密集し、道路が狭いといった防災上の課題を持つ地区である。

豊島区は、阪神・淡路大震災以来、区有施設の安全点検や区内の木造建築物の耐震診断を進めているが、平成7年5月には、災害に強いまちを目指して池袋本町地区を、防災生活圏促進事業対象地区に選定した。

地元では、これを受けて、池袋本町に住む住民、町会、商店会の代表43名による「池袋本町防災まちづくりの会」を結成。これまでに、会員が地区内を回り、「防災水槽」や「危険な道路」などを写真や地図にまとめるといった、まちの防災点検を行い、その成果に基づいて池袋本町の防災まちづくりの課題の検討を進めてきた。

10日の報告会では、会で調査したまちの現状と問題点を説明し、大地震が起きても重大な被害にならないよう、みんなが守り、誰もが安心して住み続けられるまちをつくるための防災まちづくり計画や緊急課題について提案を行う。

豊島区の今後の防災都市づくりのモデルケースとして、注目される。

<参考> 防災生活圏促進事業

大地震が起きても逃げないで地域を守ることができるまちを目標に、幹線道路などに囲まれた地区を単位に、防災組織などまちの防災力を高めながら、道路・公園・広場・緑・町並みなどを改善し安全で住みよい環境づくりを進める事業。23区では、墨田区一寺言問地区の路地尊などが知られている。

詳細 (財)豊島区街づくり公社